



Ken!s history

Ken!s の 70 年

創業前史・0からの挑戦

敗戦を機に 激変した日本

1945（昭和20）年8月15日、この日を境に日本は一変した。海軍潜水学校教官を務めていた西松張尾も例外ではなかった。終戦後、故郷熊本で義父松岡正直（尚綱高等女学校の教諭）が一流の画家だったことから額縁作りで生活の糧を得ていた。そこに台湾で教員をしていた田辺家3男林五百樹が'46（昭和21年）年に帰国。さらに翌年3月、次男田辺新爾が中国大連から教職を辞して帰国。新爾は当時の記録・日記を多く残している。「若い時の勉強は（中略）何物も残らなかったことを残念に思ふ。空を勉強していたやうな気がする。実学をやらなければいけなかったのだ。実際に役立った理科をやるべきだった」（昭和22年5月22日の日記）

3家族が熊本市黒髪のパウダの家で今後を模索していた時、やはり広島の長兄綱雄から「理科学器械製作の仕事がある」という手紙が舞い込む。次に来た電報には、

「理科並びに数学教員製作の予定。唯

今のところ1ヶ100円、年産1万ヶ、100万円。30万円の利益あり。4月1日夕刻までを以って来れり」（昭和22年3月31日の日記）

綱雄は広島高等師範附属中学校に勤務していたが、原爆で壊滅的な被害を受けると、'45年9月から八本松の陸軍農業宿舎跡で農耕を兼ねた教育を始めていた。'46年には小学校跡で附属中学も授業を再開。居も同地に構えていた。

4人の兄弟で
理科学器械の道へ

新爾は切符を工面して4月1日、広島に向けて出発。午後2時、西条に着した。日記によれば

「注文は確実。唯一刻も速なるを要すべし。工場を熊本にする兄の予定だったが、宣伝価値やら、仕事の都合上、思ひきって広島でやったほうがよからうとの意見を出した。そのつもりで発足することにきめる。最初は余と張尾と直康君（出光直康君は大工で、道具を一通り持っていた）と三人。食料は兄のところで心配する。家の見当は

だいたいいつている。明日見に行くことにする。製作する物は平凡なものだが、早ければ当たるとの見込み。」（昭和22年4月2日の日記）

5月8日早朝、新爾と張尾は広島科学工作社創立（後の科学共栄社）のため出発した。創立に先立ち、張尾は出資者を求めて奔走していたが、ことごとく失敗。広島市郊外の大河に間借りし、綱雄提案の木製天体望遠鏡の製作が始まった。

「広島高等師範学校附属中学教諭 田辺綱雄 教科書準拠 天体観測器」と図面入りの説明文を付け、購入希望者は前金で申し込むように各中学に郵送した。図面は新爾、製作は出光直康が担当。張尾は宣伝費や材料費を捻出するために、熊本の両親の家を抵当に入れ、2万円の借り受けに成功。後に病床の張尾は「（この2万円は）現在の価値にすれば1千万円くらいの値打ちではなかろうか」と記している。資金的余裕を得て事業は好転し始め、綱雄の提案で次回は「化学実験装置」「化学実験用具入れ」の製作・販売を行うことになった。

ハレー彗星と共にやって来た。 創業者、西松張尾



1928（昭和3）年4月海軍兵学校入学。3年生の時に胃潰瘍になり療養後、1年後復学。1943（昭和18）年12月、呂号43潜水艦艦長に栄進。戦場に赴くが肺結核となり、広島県大竹にあった海軍潜水学校教官として後進の指導に当たる。終戦後は熊本の妻美知の実家で1年ほど過ごす。



軍艦の上で上官と。前列左が張尾。



張尾と美知が結婚したのは1941（昭和16）年11月。婚約中の美知の元へ「別れになるかもしれんから逢っておこうと思って帰熊した」とやって来て、急遽、親たちの希望もあり13日に結婚式を挙げ、佐世保で2週間ほどいっしょに生活をし、張尾は出航。12月8日、太平洋戦争が始まる10日ほど前のことだった。

■ 明治43年、熊本県に誕生

創業者西松張尾は1910（明治43）年5月25日、父田辺善五郎、母さきの4男として熊本県葦北郡津奈木村に生まれた。父の善五郎は熊本県師範学校に学び、熊本県葦北郡の5つの村の小学校長を勤めた。長男綱雄、次男新爾、3男林五百樹も教員の道に進んだ。綱雄は広島高師附属中学校に勤務し、戦後は西条町に住まいしていた。理科学器械を製作して販売する会社を興すために、兄弟が寄居していたのはこの家である。次男の新爾は熊本県第一師範学校を卒業後、大連第五小学校訓導（第二次大戦前の教員の職階の1つで、今の教諭）として赴任、後に校長を歴任する。1947（昭和22）年、家族と共に熊本に引き上げてきた。3男林五百樹は熊本県師範学校卒業後、教員となって家族と共に台湾に出向。中学校教員、後に校長を歴任。1946（昭和21）年3月に台湾より家族と共に帰国する。

張尾は、親兄弟共に、教員一家の中で育つが、彼は熊本県下で最も古く、秀才が集うとうたわれた旧制熊本県立中学済々黌に進んだ。勉学のみならず、体格にも優れていた張尾は、1928（昭和3年）4月、最難関と言われた広島県江田島にある海軍兵学校へと進んだ。

■ 尾を引く彗星と共に！

「張尾が生まれた年、西の空にハリー彗星が現れた。いろいろ憶測も生まれたが、その彗星の姿は忘れられない」と、長男綱雄が後に語っている。張尾が生まれた年の5月21日の夕方、ハリー彗星が西方の空で観測さ

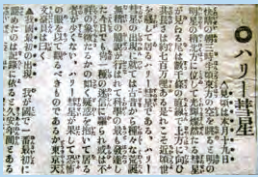
れた。その前から「尾を引くハリー彗星の猛毒成分で地球の生物は死滅する」とか「ハリー彗星が通り過ぎる5分間ほど空気がなくなるので自転車のチューブで酸素補給をした方がいい」といった噂が乱れ飛んだ。「父は世間で話題になったハリー彗星の尾にちなんで、ハリーの尾、張尾と名付けたと言っていました」と綱雄は言っている。末っ子ということもあり、両親からも、また兄弟からもかわいがられ、長じては友人からも信頼を得て張尾は円満に成長してきた。兄たちと名字が違うのは母の実家の西松家に後継ぎがなかったため、1912（大正元）年8月、養子縁組をしたためである。戸籍上の母は西松タマといい、母の妹だった。父が亡くなった後、姉妹はいっしょにいることが多かったという。

■ 開戦直前に結婚

現会長の両親である西松張尾と松岡美知が結婚したのは1941（昭和16）年12月8日、太平洋戦争が始まる直前の11月13日のことだった。美知の父、松岡正直は尚綱高校の教諭を務め、熊本洋画界の草分けとして活躍した人である。父親同士が教員仲間ということで婚約していたが、張尾が戦地に赴くということで、急遽、結婚式が行われたらしい。

終戦によって、兄弟の生活は一変したが、事業成功の裏にはそれぞれが得意分野を遺憾なく発揮したことがあげられる。特に張尾は時代を見据える先見性に加え、人を許容する面倒見の良さが、多くの人々の信頼を得ることになった。ケニスの礎はまさにこの人によって築かれた。

明治43年、「ハリー彗星」が世を賑わす。光の尾を引く彗星を不祥の象徴のような見方をする向きもあったが、教育者の父、田辺善五郎は彗星にちなんで「張尾（はりお）」と名付けた。



混乱の中で昭和二十二年創業



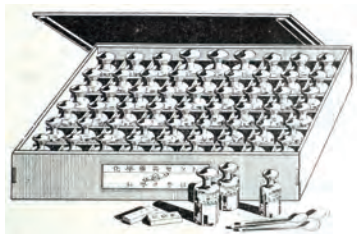
創業当時の広島営業所前（本社）。左から2 番目が隈部発生（後に専務）、その右が吉藤圭三（後に取締役）。荷物を自転車に積んで、さあ、出発!というところ。



第1号カタログ（'47. 6）
わら半紙にガリ版刷り。注文書
が添付されており、学校に郵
送して注文を取った。最初の
開発製品である天体観測器の
売れ行きが良かった。

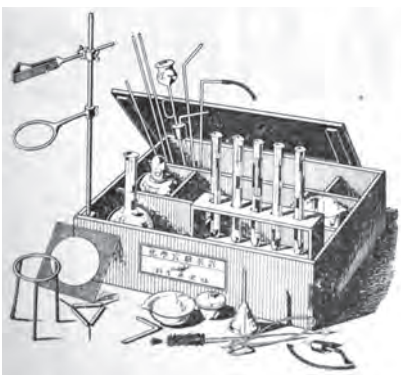


第2号カタログ（'47.11）
第1号カタログが発行されて
間もない11 月には第2号カ
タログが「理数科教具型録」の
名で発行された。このカタ
ログからすでに凸版印刷にな
り、図版入りで商品を紹介し
ている。



化学薬品セット

終戦間もない学校では実験器具が不足しており、化学の実験がすぐのできる薬品セットや化学実験セットが重宝がられ、大ヒットした。注文をさばくため、製品の製作や詰め替えを休みもなく夜遅くまで行った。



化学実験装置



カタログの作図は専務の田辺新爾で烏口を使って全ての図案を墨で描いていた。'47～'62（昭和22～37）年まで、1004 点の図を描いたという。



'47（昭和22）年、開設当時の大阪営業所（初代）



第1 号カタログに描かれた土星のマーク。KKSは科学共栄社の略である。いかにも手書きの、あまり上手ではないところが手作り感満載。

一九四五（昭和二〇）

八月 太平洋戦争終結

九月 軍需生産全面停止

一九四六（昭和二一）

二月 金融緊急措置令

雑誌『少年』『中央公論』『婦人公論』など復刊

一九四七（昭和二二）

三月 科学共栄社を起こす

教育基本法・学校教育法公布

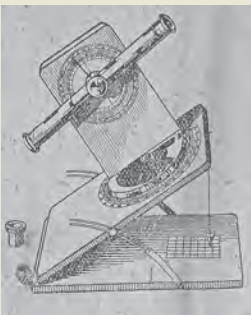
五月 理科学機器の販売開始

代表…西松張尾

■広島市中区大手町二丁目五番四号

六月 第一号カタログ発行

十二月 第二号カタログ発行



天体観測器

一九四八（昭和二三）

九月 有限会社科学共栄社に組織変更

十二月 大阪支店開設

■資本金七〇万円

■代表取締役…西松張尾

※薬品・化学実験セット大ヒット

■大阪市北区野崎町一番一六号

四月 吉川忠次郎氏宅を京都連絡所とする

（その後三年続く）

公式為替レート設定（二ドル三六〇円）

*湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞

今となつては珍しい手動式真空ポンプ



有限会社科学共栄社を 広島市で設立

1947（昭和22）年5月、西松張尾と田辺新爾は科学共栄社を興し、理科学機器の製作・販売を開始する。広島市大手町にあった八木工務店裏の工場に営業所を設けると、8 月には林五百樹（後に常務取締役）も広島にきた。同時期、薬品を扱うことになったのでラジオで薬剤師を募集。それに応じて栗山周作が、9 月には後に副社長となった島木才二郎が入社。11 月3 日には張尾は妻の美知、3 人の子どもも熊本から呼び寄せた。現会長の西松正武（昭和18.10.28 生）が4 歳1 カ月の時である。もちろん十分な住居

はなく、工場の四畳半に田辺新爾、林五百樹、出光、島木、そして張尾、妻と子ども3 人が寝泊まりしていた。出光、島木は押入を寝床代わりにし、美知は大所帯のおさんどんに明け暮れた。米もない時代、大根飯やジャガイモでご飯の代用食とした。明けて'48 年（昭和23）の正月、八木工務店が移転となり、すべて買い取り、2 棟が科学共栄社のものとなった。新爾と五百樹の家族や隈部発生（後に専務）も加わり、仕事はさらに活況を呈していった。

てんやわんやの日々！

当時の暮らしを五百樹の妻エツは後にこう記す。その暮らしは大変だった

が張りのあるものだったらしい。「(略) 先に来ておられた新爾兄さんと西松さんご一家、林、出光さん達の希望に溢れる笑顔に接したとき、気の弱い私も言い表せぬ気迫を感じて、生まれ変わったような気持ちになりました。続いて新爾兄さんの義弟島木さん、私の弟の隈部も加わり総勢17 名の共同生活となりました。全員の食事作りは三人の主婦が1 ヶ月交替の当番制とし、当番でない者は店に出て商品発送の荷造り作業に当たることになりました。食糧難の当時の食事係は大変で、私たちが来るまでの美知さん（西松張尾の妻）は三人の幼児片手にどんなにか苦勞された事と察しました。作業組の仕事といえば、荷造りが主

で、理科器具、硝子器具、薬品等、破損しないように木箱につめるのはなかなかむづかしく、木箱の縄掛け梱包も慣れるまでは苦勞しました。荷造りの手が空けば裏の工場へ行って、様々な教材やそれを収める箱などの塗装を手伝い、昼休みのほかは殆ど休憩なしでしたし、夕食後も夜遅く迄雑用をするといふ毎日でした（『くろかみ』- 心に浮かぶまに／林エツ）薬品セットがヒットし始めたのは'48（昭和23）年の初頭の頃から。『化学実験装置』『さんすうのどうぐ』『さんすうのとも』なども絶賛され、家族総出で荷造りに励んでいた。8 月、裏に住宅兼倉庫の2 階建て20 坪を建築。9 月に有限会社科学共栄社に組織変

更し、代表取締役役に張尾が就いた。同時に田辺新爾が専務取締役、林五百樹が常務取締役として布陣を固めた。

仕入先求め大阪へ

「それから半年程してから、大阪に新たに営業所が出来て、西松さんご一家と島木さんが、新天地めざして勇躍出発されました。その後、小学新入生用の『算数セット』の製作が始まり、休日や夜等は子供達も動員されて一時二時頃までも手伝い、この作業は毎年十二月から翌三月いっぱい迄続きました。この時期が過ぎると私達は以前の作業に戻り、時には理科室の暗幕の注文も有って、笑

いよいよ創業。そして大阪へ進出



『さんすうのとも』



『六年の理科』



『私たちの家庭科』

算数のドリル『さんすうのとも』は昭和25年発行。約55000部印刷された。



’51（昭和26）年頃の科学共栄社広島営業所。こちらを向いているのが林五百樹。



第7号カタログ（'50）

’50（昭和25）年に発行された第7号カタログは全24ページで製本され、冊子の形態を取った最初のカタログだった。



第15号カタログ（'54）

’54（昭和29）年に発行された第15号カタログ。エジプトの壁画風の表紙デザインが人気を博した。’52（昭和27）年から’55（昭和30）年にかけての4年間は同デザインで色違いの表紙を採用した。



顕微鏡



5A 電源装置

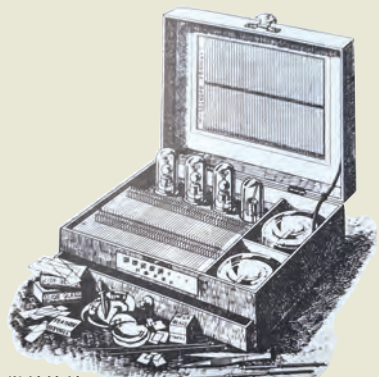
第7号カタログに掲載されていた顕微鏡600倍（中高用）／300倍（小学校用）や、5A電源装置はとても良く売れた。これらの商品は現在に至るまで改良を重ねながら、主力商品となっている。



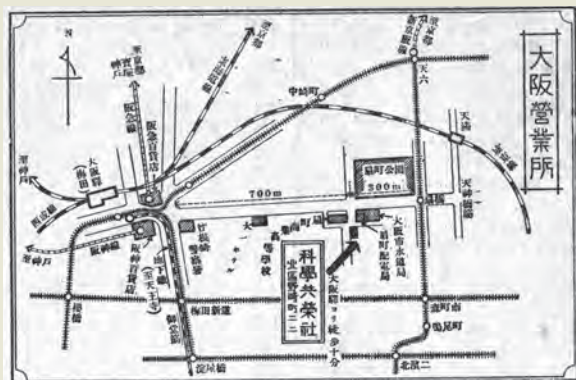
1951（昭和26）年、正月の広島営業所。家族と共に晴れ着で勢揃いしている。前列右から吉藤主三（後に取締役）、中本尚（後に常務）、少年の左隣が林五百樹、その横の眼鏡を掛けた着物姿の人は田辺新爾。後列左が林五百樹の妻、林エツ。その右横が隈部发生（後に専務）。

六月 朝鮮戦争勃発
（広島元安工場にて製作）
「さんすうのとも」「さんすうのどうぐ」発売
※顕微鏡・電源装置ヒット
五月 初の製本カタログ発刊
一九五〇（昭和二五）
科学研究には従事せずと決議
第六回学術会議総会で戦争を目的とした
一九五一（昭和二六）

八月 理科教育振興法制定
二月 資本金一四〇万円に増資
一九五三（昭和二八）
実が図られ、生徒の科学への志向を高めた。
理科教育振興を目的に制定。学校設備の充



顕微鏡検鏡セット
顕微鏡観察に必要な道具や染色液などを集めたセット。



昭和26年発行の理科学器械No11の型録（カタログ）の裏表紙には当時の大坂営業所と広島営業所の地図が載っている。大阪、広島共に移転した為、創業から長年社屋があった場所を示す貴重な資料だ。



子姉さん（新爾の妻）と交替でミシンを踏み、足が棒のようになったことも今は懐かしい思い出であります」（『くろかみ』心に浮かぶまに／林エツ）
大阪市北区野崎町に大阪支店を開設し、’48（昭和23）年11月13日、西松張尾家族と島木才二郎が大阪へ発った。やはり広島では入手できる商品は少なく、荷物を受け取るにもどうしても4、5日は必要とした。遅いときには1週間もかかることもあり、急ぐ場合は島木がリュックサックを背負い、満員電車に乗り込んで大阪・広島間を往復した。そんなことをしないで済むために、大阪に仕入れの拠点となる支店を作ろうというのが張尾の考えであった。

大阪では終戦の年の9月1日から学校の授業は再開されていたが、殆どの児童は疎開先におり、実際に始業式に登校してきたのは、「西区江戸堀国民学校で2人、此花区恩貴島学校で18人であった」（『大阪大空襲による国民学校破壊とその後』／赤塚康雄）という。’47（昭和22）年4月には教育制度が改革され、国民学校は小学校に、中学校を新たに発足させ、旧来の中学校や女学校、実業学校は高等学校に改められることになった。小学校や高等学校は使える校舎もあったが、新制中学は敗戦後の混乱の中での発足で、体制を整えるのに困難を極めたと言われる。大阪への進出は学校体制がそのような時期であった。

「昼は学校への直接販売、夕方から道修町、北浜方面へ薬品、消耗品などを自転車に満載しての仕入れでした」（『科学共栄社 45年の歩み』／島木才二郎）。
昼間は学校に営業し、夕方からは間口2間ほどのバラックで、社長も家族も一丸となって得意先ごとに荷造り作業をするのが日課であった。林五百樹の妻、林エツの文章にもあるように、’50（昭和25）年からは広島市元安工場で『さんすうのとも』『さんすうのどうぐ』を製作し始め、てんやわんやだったという。
時間は前後するが、’49（昭和24）年、吉川忠次郎氏宅を京都連絡所とした。これは空襲の被害を免れた京都の

工場に自社企画の理科製品を製品化してもらうため、その後、張尾は京都、大阪の工場を大切に、工場の社長とよく飲んで慰労に務めた。科学共栄社の「共栄」には自社のみならず、協力会社と共に栄えていきたいという意味が込められている。
当時、最も困っていたのは資金繰りで、製品化する材料の仕入れに四苦八苦していたが、次第に仕入れ先からも信用を得て、約束手形を使えるようになると、仕事が一段とスムーズに回転するようになった。広島と大阪の二頭立てになることで、大きなパワーを得始めたのがこの時代で、’53（昭和28）年2月には資本金を702,000円から1,400,000円に増資している。

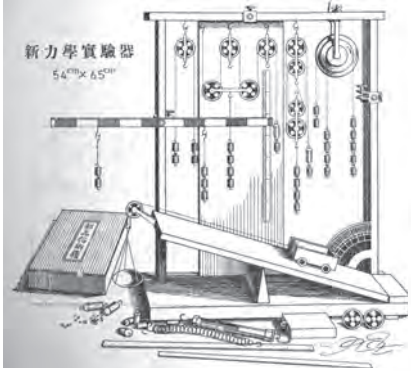
ベビーブーマー 小学校入学

1954（昭和29）年4月、終戦から9年を経たこの年、小・中学校の生徒数が前の年を約100万人上回った。小学校には前年よりも55万人多い約255万人が入学。1クラス70人編成としてもまだ教室の数が足りず、体育館や音楽教室、家庭科室なども教室として使われた。教室だけではなく、先生の数も足りず、1年生の授業の間、6年生は自習をしているという状況もあったという。
第二次大戦後の’47（昭和22）年から’49（昭和24）年に生まれた団塊の世代の人々（第一次ベビーブー

マー）が入学期に当たったのである。
その年、当社に大きな影響を与えたのは通称『理振法』と呼ばれる理科教育振興法が施行されたことである。’48（昭和23）年から導入された教育制度によって、中学の理科は18単元構成で、問題解決学習の形式を採用、高校では物理・化学・生物・地学の4科目が採用された。しかし、実験器具の圧倒的な不足など、理科教育の現状は思わしいものではなかった。そのような現状を踏まえ、各地の教育の現場から理科教育の再建を図る要望が出始め、’53（昭和28）年8月には理振法案が国会で可決された。そして翌’54（昭和29）年4月1日から施行されることになったのである。



東京タワー
日本電波塔として1958（昭和33）年12月23日に港区芝公園に竣工され、長らく東京のシンボルとして富士山と並ぶ観光名所となった。富士山の標高は3776m、東京タワーの高さは333m。



実験用てこ
理科教育振興法が制定され、小中高等学校の理科教育の設備の基準（理振基準）に関する詳細が定められる。理振基準の電流計・電圧計・実験用てこ・人体骨格模型など、小中学校対象の製品がよく売れた。



人体骨格模型



昭和29年1月2日の大阪営業所。商品展示室に集まり、新年を祝う。中央が西松張尾。



昭和26年頃の大阪営業所商品展示室。

五月 創立二〇周年祝賀
一九五六（昭和三二）
十二月 元安工場閉鎖
■昆虫採集用具等。その後、約二年間続く
阪神百貨店に出展
*「ローマの休日」のヒット
一九五五（昭和三〇）
＊理振法で営業活動活気帯びる
（予算額三億八〇〇〇万円）
四月 理科教育振興法施行
一九五四（昭和二九）

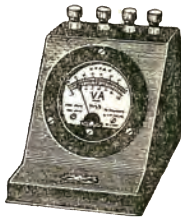
理科教育の再整備

「昭和23年戦後初めて、富山県理科研究会の主催で講習会が開かれましたが戦災・風水害等で学校の理科機械は殆ど死蔵されたままでした。この頃文部省は理科機器の修理講習会を各地で催し、奈良教育大の岡崎先生、島津理化の森本常吉先生、スンプの鈴木純一社長など専門家が応援に乗り出し、自作教具や実験法を全国に普及させました。昭和27年頃には、文部省管理局が初等中等教育局に移され、文部省の中に教育用品室が出来て、島津製作所、前川科学、内田洋行、中村理工工業、八神理科器、金子製作所、三啓、科学共栄社がメーカーと

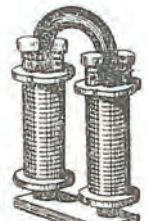
して出展し、実験器具の展示や研修を行いました。これが後に理振法（理科教育振興法）制定の下地となり、また日本教育用理科機器協議会の前身となっています。（中略）昭和28年8月に理科教育の振興を図ることを目的に『理科教育振興法』（理振法）が議員立法で制定されました。理振法は戦後、産業を再興し、理科教育を通じて、科学的な知識・技能及び能力を習得させると共に、我が国の発展に貢献しうる人材育成を目的に制定されました。翌29年に3億8千万円、約4億円近い国庫補助が支出され、以後、毎年予算が執行されています。一方で理振規格に抵触しなければ『安からう 悪からう』の傾向も強く、今から



1955（昭和30）年、大阪営業所にて初荷。3輪自動車を前に記念撮影。仕入れ、配達是小回りのきく自転車だった。

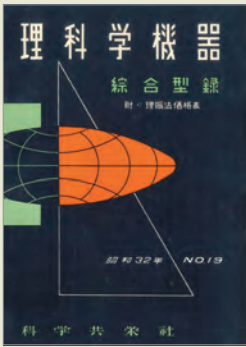


生徒直流電流電圧計



生徒理科実験器械
100種の生徒実験器械をそろえた。一つの実験には一つの器具という単独式とし、普通教室でも実験ができる様に小型化し、価格もおさえた。

六月 一〇〇頁を超えるカタログ発刊
四月 生徒理科一〇〇種実験器具完成
一九五七（昭和三二）
七月 資本金四八〇万円に増資
一九五八（昭和二三）
九月 岡山営業所開設所長…西川章
＊ミッチーブーム・フラフープブーム



（左）第19号カタログ（'57.6）1957（昭和32）年6月発行。頁数が100ページを超えた。
（右）生徒理科実験器械（'57）生徒が表紙を飾り、生徒実験器械100種を掲載。台湾へも大量に輸出された。

考えると形だけの製品も出現し、理振法が出来た2、3年後に理科教育審議会より、設備、理科機材の選び方図書が刊行され、順次良心的な製品が開発されました。」（『科学共栄社45年の歩み』/島木才二郎）

専門家を開発に招く

理振法の設置に伴って予算が組まれたが、理科教材は当初品質はそっちのけで過当な価格競争に陥り「安からう悪からう」の製品が横行した。それを危惧したのだろう。張尾は理振法発足間もない頃、理科教育に造詣の深い兄の綱雄に研究部の設置を打診している。それまでは張尾が企画し、兄

新爾が精密な図案に描き、専門分野に長けた協力工場が試作品を作るという方法がとられてきたが、そこに理科教育の専門家の意見を取り入れるシステムを導入したのである。

当初は伊丹市教育委員会に勤務していた兄綱雄と兵庫県教育委員会指導主事の福田武夫氏が当たり、福田氏亡き後は『研究顧問会』として神戸高校の那波信男氏、西宮高校の河合善五郎氏、伊丹市教育委員会の田代宗之助氏が当たった。張尾が『研究顧問会』を設置したのは「優良な器械案を得るばかりではなく、現在から将来にわたって変化する教育界の動向をつかみたいと思っていたのでは」と兄の綱雄は張尾が亡くなった後に述べている。

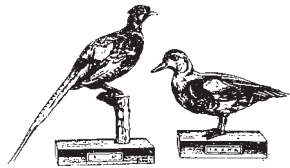
後に『研究顧問会』からは学校の理科教育の現場で好評を博した『電源器』などが生まれた。『電源器』は科学共栄社製が一番良いと多くの方に言われ、実際によく売れた。

1955（昭和30）年になると、造船の好調によって経済は安定し、「神武景気」なる言葉も誕生した。'56（昭和31）年になると、経済白書で「もはや『戦後』ではない」といわれ、テレビや洗濯機などの生産に拍車がかかる。'57（昭和32）年には、あの軽三輪自動車『ミゼット』が発売され、軽自動車免許で乗れたこと、値段も四輪に比べて魅力的だったことから、小口の配達に便利と多くの企業に取り入れられた。

『理振法』制定 理科教育の幕開け



昆虫分類標本



はく製標本
当時のカタログには、今は作り手がなく販売されていない昆虫分類標本、はく製標本、液浸標本が多数掲載されていた。この頃は都会にもまだ自然が残っており、昆虫採集や植物採集が盛んだった。



'55（昭和30）年から約2年間、阪神百貨店で昆虫採集用具などを展示販売する。



ブラマ水圧説明器

物理実験機ではブラマ水圧説明器、パスカル原理説明器、ベルトン水車模型、線膨張実験器など、今は発売されていない製品が主力商品であった。



昭和34年6月田辺新爾、林五百樹、西松張尾の生まれ故郷である熊本公民館で展示会をする。写真下は展示会にあたったスタッフ。一番左は若き日の谷口信一（現監査役）。



1960（昭和35）年、白衣姿で実験講習にあたる田辺綱雄。右端は西松張尾。



初の英文カタログ（'62）輸出が活発であったため、その後も'64（昭和39）・'68（昭和43）・'74（昭和49）と発刊された。



1961（昭和36）年5月、大阪市北区野崎町に鉄筋4階建の大阪本社（2代目）を新築する。



大阪新社屋竣工式。これより大阪に本社機能を全面的に移す。前列右から5番目に西松張尾、その左に田辺新爾、島木才二郎。

理振法とケニスの営業展開 水本敏夫

PROFILE

元取締役福岡支店長。昭和35年3月、科学共栄社入社。勤続48年、内福岡支店に支店長として16年、広島支店長を兼務した。

理科教育振興法(以下『理振法』)は昭和29年に施行された。補助事業によって全国津々浦々の学校に理科教育機器が届き、活用されることになりました。

常に積極的な営業を基本とし、①情報収集②代理店との具体的な打ち合わせ③同行PRを行いました。特に③の同行PRには力を入れました。

他社との違い、ケニスの強みは①商品力(ケニス製品は常に改良を加え、PRしやすかった。例えば5A電源装置のノーヒューズブレーカーの採用)②代理店との共存共栄の精神で営業展開ができたことだったと思います。

最後に当時の営業の苦労話や嬉しかったことを一つ書いてみようと思います。長崎市のある小学校を訪問した際、ケニス直流電流計の測定値が以前からある他社製とに差があるとのクレームがありました。先生の話をよく聞いたところ、

差は正しい値を仮定し計算してもJIS 2.5級(±2.5%)の範囲に充分入っていましたので「2つの製品とも大丈夫です」と話し、ご理解いただきました。このことを出張報告書で社長(創業者)に話したところ、赤の線が引いてあって「よろしい」とほめてもらいました。今でも覚えている記憶に残るうれしい出来事です。



現役時代の水本敏夫さん(福岡支店にて)

七月 資本金六〇〇万円に増資
登記上の本社は広島。代表取締役西松張尾
二月 株式会社科学共栄社に組織変更
一九五九(昭和三四)
二月 就業規則・給与規定制定
*カラーテレビ放送開始
ヒントに特長ある製品を考案
*レーボルト社(ドイツ)の理化器具を
五月 資本金七〇〇万円に増資
四月 中学技術家庭科用品販売
一九六〇(昭和三五)
五月 大阪本社新築落成
一九六一(昭和三六)
*「上を向いて歩こう」「スーダラ節」流行
(四階建 二六七・三八四)

六月 資本金二〇五〇万円に増資
一九六二(昭和三七)
■輸出用に昭和三九、四三、四九年にも発刊
英文カタログ第一号発行(九〇頁)

五月 広島営業所を大改築
四月 資本金一四〇〇万円に増資
一月 理振法制定一〇周年記念式典
一九六四(昭和三九)
*東京オリンピック開催
*東海道新幹線開通

組織変更し 株式会社科学共栄社に

1960年代は理科教育振興法の制定などもあり、業績は順調で業容も拡大していた。'59（昭和34）年には売上は1億円を突破。今の金額でいえば4～5億円くらいか。同年、会社は組織変更され、株式会社科学共栄社となった。代表取締役は西松張尾である。売上は'65（昭和40）年に2億円を記録。'74（昭和49）年には5億円を突破し、社員数も40名と、その業容も次第に大きくなっていった。売上も順調に伸びていったが、利益が出始めたのは昭和47、8年頃からである。利益は事業を大きくするために

再投資された。「昭和30年代に入り理振法の(価格競争の)影響等あり、資金繰りに困難を来し、末広町の自宅・土地、大池町の住宅宅地を15、6年にわたり、銀行の根担保(4～5,000万円)に提供し続けた。その為に、銀行と会社及び社長との関係は密接となつてうまかった。勿論、新爾氏及び島木君にも必要に応じては担保を提供してもらった」(『科学共栄社 45年の歩み』/西松張尾)
張尾は、こう語っているが、谷口信一(1959年入社、現監査役)によれば「資金繰りに困難を来していたのは協力工場の経営を安定させるために大幅に在庫を抱えていた」からだという。

大阪営業所(本社) 新社屋完成!

「売上が初めて1億円を達成した時は、池田内閣が所得倍増計画を発表した年であり、我が社も売上、利益共安定推移していたので、大阪支店のビル建築を計画、着手されたのでした。(中略)金利云々より調達額(借入額)がいくら出来るかが問題でした。(後略)」(『科学共栄社 45年の歩み』/谷口信一)
この時代は安定して業績は伸びていても、常に資金をやり繰りし、さらに伸びていこうという姿勢を崩さなかった。その意味で、'61(昭和36)年に新築された大阪支店ビルはこれからの飛躍

を目指すものであった。当時は珍しい4階建。しかも、周辺にビルがないのでよく目立った。4階の社員寮からは梅田方面がよく見え、若い社員は快適に暮らしていた。

貿易の着手は30年代。 50年代は輸出から輸入へ

新規開拓や商品の紹介を行うために英文カタログを'62（昭和37）年、'64（昭和39）年、'68（昭和43）年、'74（昭和49）年と発行した。
1960年代は決済通貨として米ドル、英ポンドの2通貨が用いられ、特に北米地域を除いて殆どの地域が英ポンドだった。何れにしても当時は固定相場

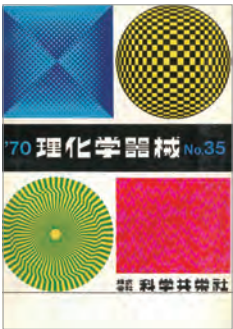


1970（昭和45）年社員旅行。鷺羽山にて



顕微鏡投影装置

下部からプレバートに光を当て、上部の摺ガラスに映像を投影する装置で、顕微鏡テレビ装置が発売されるまで演示説明に広く使われた。



第35号カタログ（'70）
ページ数が200ページを超える。その後、'81（昭和56）年発行の第47号で300ページ、'86（昭和61）年発行の第61号で400ページを超えた。



第41号カタログ（'74）
凸版から写植に移行して、印刷の質が向上した。後に新聞編集でも活躍していた電算写植を取り入れ、編集の効率化を図った。



実験用ガス

実験用酸素・窒素・二酸化炭素を発売。スプレー式で実験のスピード化に役立ち、小学校から高等学校まで各種実験に幅広く使うことができ、大変重宝がられた。



万博公園：太陽の塔

七月 新商標のPR全面的に開始
KENIS（ケニス）の商標公報される

一九七四（昭和四九）

*実験用ガス、業界に先駆けて発売

一九七三（昭和四八）

*札幌冬季オリンピック開催
*沖縄県誕生

一九七二（昭和四七）

十一月 田辺新爾専務逝去（社葬）
（顧問・太田三郎先生）
算数・数学教材の研究製作を開始

三月 理振法数学が制定される

一九七一（昭和四六）

憧れの寮生活

監査役
谷口信一

PROFILE
昭和34年、科学共栄社入社、62年取締役
経理部長。平成9年常務取締役、15年監査役。



私が別府大学附属高校を卒業し、当社に入社したのは、昭和34年。世の中は岩戸景気に湧き、初めてアジアで開催される東京オリンピックへと向かう大変元気な時代でした。そんな時代に、大阪支店を4階建ビルに新築することになりました。私はそれまで野崎町の2階に経理を担当していた栗木さんと住んでいました。同心町にあった倉庫には重光さん、澤田さん、住友さんが住んでいました。

新社屋は昭和36年に完成。4階が社員寮に当てられました。6畳

大阪本社屋上で。一番下が谷口監査役。

間が2間あり、私と、初代東京営業所の所長になった江熊さん、貿易を担当していた澤田さん、岸本さんと中光さんが暮らしていました。3階は社長室と専務室があり、もう一室に福岡営業所長になった水本さんが暮らしていました。

夜は他の社員も寮に上がってきてすき焼きをしたり、鍋を囲み、日曜日は近郊へハイキングに出かけたり、楽しい青春時代がそこにありました。それぞれが中堅社員として育っていく助走期間が寮での暮らしだった気がします。



広島営業所の昭和36年正月。前列左から2人目が林五百樹。昭和31年に田辺新爾専務が大阪に移動した後は林常務（当時）が広島を率いてきた。スクーターやオートバイが、移動や運搬の足として活躍した。



エアートラック

無摩擦で力学運動を観察・解析する実験器で、等加速運動や衝突の実験を随時に何度でも観察できた。日本で最初に製品化し、全国の高等学校で広く採用された。



1966（昭和41）年、JALの袋を持っている人がいるところから海外出張と思われる。中央コートを着て帽子をかぶっているのが西松張尾。ベレー帽をかぶっているのは田辺新爾。



摂津倉庫昭和43年から平成19年まで40年間使用した。

*よど号事件が発生

八月 大阪万博開催

四月 エアートラック販売開始

一九七〇（昭和四五）

（鉄骨三階建 二八二世）
■摂津市島飼野々一丁目三〇番二号

四月 摂津倉庫建設

一九六八（昭和四三）

（大阪マーチャンダイズマートビル）
第一回科学機器展に出展
イランより一〇〇〇万円受注
（鹿児島県、三州理化工業、大津理化、協栄教材）
■年間売上五〇〇万円の四社沖縄へ。

三月 創立二〇周年記念招待旅行

一九六七（昭和四二）

決算期を八月二〇日に変更
（於：京都東山会館）

八月 第一回代理店向け理科説明会
*業界内で乱売が起き、問題化

一九六六（昭和四一）

九月 大阪前川科学倒産
岡山営業所閉鎖
『服務要項』の発行と実施

七月 資本金一六一〇万円に増資

一九六五（昭和四〇）

制で安定した取引が出来ていた。また、我が国の物価水準は国際的に低く、新規市場開拓は商工会議所、ジェトロの図書閲覧により、相手先取引依頼書を郵送する方法だったが、相手先からの反応はきわめて良好なものだった。

当社が初めて貿易に関与したのは1955（昭和30）年、三井物産（株）を経由して低周波発振器をオーストラリアに輸出したことに始まる。その後は'60（昭和35）年にシンガポールのコートンチャン社と取引関係が成立し、シンガポール、台湾、メキシコなどへの輸出が始まったほか、その後は米国、カナダ、オーストラリア、レバノン、イランなど、間接貿易も含めると20数カ国と順調な取引を続けた。

しかし、こうした好況は'71（昭和46）年のニクソンショックや'73（昭和48）年の変動相場への移行に伴い状況が一変した。急激な円高により、価格が上昇し、輸出は厳しくなったのだ。逆に輸入が模索され始めたのはこの時期からである。輸出は細々と続けながら輸入に活路を見出そうとした。世界最大の理科教材などの展示会ワールド・ディダック（世界教育機器展）に初の海外視察に出かけたのは1984（昭和59）年であった。世界中から集まった有力なメーカーや熱心な先生方と会場で商談を行い、品質と価格に優れた新製品を発掘し、実際に取引に結びつけていった。

視察に行き始めた初期の頃はヨー

ロッパや米国からの輸入が主であったが、'95（平成7）年頃から、価格的に優位な中国製品が増え始め、特に顕微鏡や人体模型類は今では中国製が席巻している。昭和60年代頃からは、そうした海外の商品が売れ筋商品として業績に寄与した。

中でも顕微鏡は学校現場の整備希望品目の上位を占めてきた製品であり、'95年頃は1000台程度の輸入数量だったものが、現在では年間10,000台以上の輸入へと飛躍的に伸びている。品質に気を配りながら製品開発と改良を続けた結果、今や当社の売上・利益の双方を支える主力製品にまで成長した。

二代目社長就任。攻めの営業へと転換



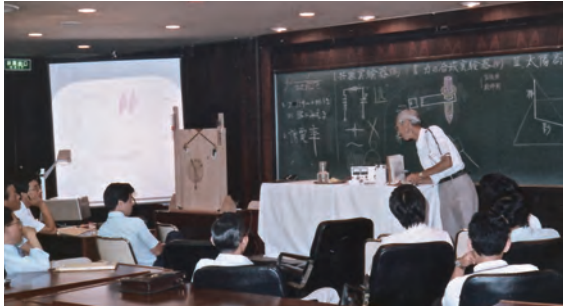
1980（昭和55）年カタログ説明会で挨拶する西松正武社長。



商品開発は研究顧問会を構成する現場の先生方の意見を聞きながら行われた。先生方を挟んで左が新社長となった西松正武。右が米谷彰（現企画部主席）



1983（昭和58）年の社内風景。経理ではソロバンが活躍。パソコンの導入はこの後か。



研究室の顧問だった田代先生による新製品の紹介。



増築披露。前列左から藤木、江態、島木、西松、沢田、谷口、田辺純一。



1980（昭和55）年増築なった大阪本社。3代目



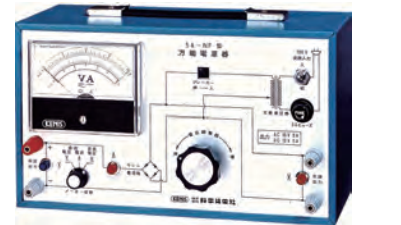
1980（昭和55）年、全国小学校理科大会 呉で行われ研究会と展示会が開催された。他に中学校、高等学校、大学を対象とした展示が、全国各地を持ち回り行われている。



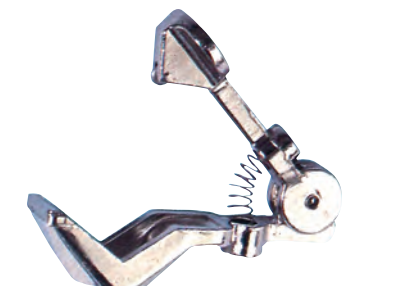
顕微鏡テレビ装置
顕微鏡テレビ装置（カラー）が1982（昭和57）年に登場した。高価ではあったが、きれいな画像を多人数で観察でき、従来品から切り替わっていく。



ニューパワー誘導コイル
AC100Vに接続するだけで高電圧を発生するニューパワー誘導コイルをアメリカより輸入。国内初、発生電圧と放電周期をコントロールでき、利便性が重宝される。



万能電源器 NF 型
業界に先がけて、ノーヒューズ・ブレーカー方式の電源装置を発売。5アンペア以上の過電流が流れると回路が自動的に切れ、ブレーカーを押すだけで回路が復帰する。



ガラス管切

ガラス管やガラス棒をさみ回転するだけで、だれにでも簡単かつきれいにガラス管を切ることができる。国産のアルミ鋳物製からアルミダイカストのアメリカ製に切り替える。品質も良く、価格も下がりヒット商品となる。

＊各営業所にFAXを設置する
（二階建一八五坪）
■福岡市東区八田三丁目二九番五号
八月 福岡営業所開設（所長…笠木俊一）
一九八三（昭和五八）
＊ニューパワー誘導コイルを輸入
■同式典で永年企業表彰を受ける
十月 大阪科学機器協会三〇周年記念式典
七月 コンピュータ導入
＊教育分野に加え、研究理化分野に参入
二月 試験研究用カタログ発行
一九八二（昭和五七）
＊自動車の生産台数、米国を抜き世界一となる
（総四階建 七五七坪）
二月 大阪支店増築
十月 資本金二〇七〇万円に増資
一九八〇（昭和五五）
＊ガラス管切り輸入開始
一九七八（昭和五三）
五月 創立三〇周年記念行事
（於…コ罗纳ホテル 得意先八〇名招待）
二月 神戸営業所開設（所長…鍋谷憲幸）
一九七七（昭和五二）
五月 西松正武社長就任
（千里会館にて社葬（六四歳））
■大阪新千里病院にて肺癌のため
四月 創業者西松張尾逝去
初めて大学新卒を採用
一九七六（昭和五一）

2代目にバトンタッチ！

1976（昭和51）年5月、科学共栄社は悲しみに覆われた。創業社長西松張尾が肺癌のため64歳という若さで逝去したのだ。

「社員はもちろんですが、協力会社、仕入れ先、お得意様、すべての人が衝撃を受けたと思います。細やかな心配りの、人間として本当に情の深い方で、この社長だから頑張ろうと思う人が大半でした」と、当時経理課長を務めていた谷口信一（現監査役）。次期社長に就任したのは当時まだ32歳だった張尾の長男、西松正武（現会長）だった。

「私が入社したのは1972（昭和47）

年。昭和48年頃からは理振法予算が20億を超え、売上も利益もコンスタントに出始めた時期でした。しかし、この理振法予算の受注獲得競争では、当社は他社に後れを取っていた。その原因は何か、2代目社長に就任した私が考えたのは他社との競争に負けない営業でした」と正武。彼が出した結論は商品の充実を図ること。そして「受け身の営業から攻めの営業への転換を図る」こと。まず販社を増やすと共に、広島に並ぶ直販拠点を設けることに取り組んだ。

候補に挙がったのは神戸だった。社長に就任した年の'77（昭和52）年、広島営業所から鍋谷憲幸を呼び、神戸営業所を開設。当初は営業展開で

きる地域の制約ハンデ（既存代理店との取り決めで小中学校のアプローチは東灘区のみ）があり、営業的に伸び悩んでいたが、そのハンデを逆手にとって新たなエリア（伊丹市、宝塚市、西宮市、芦屋市）への販路を拡大、高等学校や大学へ営業転換した。4年後の'81（昭和56）年に営業損益はとんとの状態になり、'83（昭和58）年には高等学校の販売比率が40%となり、翌年、ついに利益を計上。その後は広島に並ぶ販売拠点として成長していった。

'83（昭和58）年には福岡市に営業所を開設した。初代営業所長となったのは笠木俊一（現専務取締役）。「理科メーカーで、最後に九州に営業

所を置いたのが当社でした。入社して7年、それまでは阪九フェリーで神戸から九州入りしていましたが、やはり地元に着いていないと、なかなか迅速にご要望にはお応えできません。当初は妻と二人での赴任でしたが、方言も分からず苦労したこともあります。当時、代理店は30社程度でしたが、積極的に代理店の開拓を行い、今では代理店も200社になり、九州全域を網羅しています。九州におけるシェアは同業他社とトップを競うまでに成長しました。社長も私自身も若かったので、積極的に打って出た結果だと思います。新天地を開拓する面白さを感じていましたね」と笠木俊一。



神戸ポートアイランド博覧会
「新しい“海の文化都市”の創造」をテーマに1981年、神戸港内の人工島ポートアイランドで「ポートピア（PORTOPIA）'81」の名で開催された。海や港と共に21世紀を視野に入れたテーマが設定され始めた。



1983（昭和 58）年、代理店セミナーで。（右から）島木副社長、講師をお願いした田葉井製作所（現エスベック株式会社）小山社長、西松社長



昭和 61 年、新年互礼会。



昭和 61 年、初代東京営業所開設



S480 カタログ'82) 研究用カタログ第 1 号。理化学分野を始めたことで、教育用を Education の頭文字を取って E、研究用を同様に Science の S と呼ぶようになる。



1987（昭和 62）年 8 月 30 日、広島新営業所開所祝い。



1987（昭和 62）年に広島営業所が移転。1947 年に広島で創業してから 3 代目になる建物である。



E540 号カタログ('85) 教育用にバイオブロックを新設。'87(昭和 62) 年にはバイオカタログを発刊した。



S600 号カタログ('88) 初のオールカラーで理化学業界から好評を得る。この年以降、偶数年に研究用、奇数年に教育用と隔年の発刊になる。

東京支店「今昔」

専務取締役・営業本部長
笠木俊一

東京営業所が開設されたのは福岡営業所開設から 3 年後の 1986（昭和 61）年ですが、当初は東日本における販路拡大のために足立区北綾瀬に事務所を設けました。その後、ここを拠点に関東、東北、北海道までのエリアを営業することになりました。しかし、開設当初は人員も少なく、一人が多くの県を担当せねばならず、しかも、東でのケニスの知名度は低く、非常に苦労しました。

その後、1997（平成 9）年、東京のど真ん中とも言える文京区本郷に事務所を移転したのを機に、採用を積極的に行い、関東地区を中心に教育用理科ライバルメーカーの主力代理店様との取引きを開始するなどして、徐々にケニス代理店網を拡大してまいりました。また、『東日本ケニス会』の設立を行い、代理店様を増やすと共に代理店様との関係強化ができたことも

売り上げ拡大に繋がる要因でした。文部科学省や環境省など、霞ヶ関での省庁訪問も積極的に行って予算などの情報収集を行い、これを全社に発信して、他社に先駆けた営業展開を行うことも重要な役目でした。

今日でも東京支社はその役目を担っており、今後も教育・研究機器の営業拠点として、一層の発展を続けていきたいと考えます。



東日本ケニス会で挨拶する笠木俊一

東京営業所の開設

福岡営業所開設の 3 年後、次は東京営業所の立ち上げに取り組む。

「関西が本社の企業は東京という、どうしても引いてしまいがち。でも、販売網拡大には東京は不可欠な地でした。予算の規模や額は大阪の比ではない。当然、教育予算も大きい。また、東京を足がかりに関東、東北、北海道への販路も広げたいと考えました」と正武（現会長）。

1986(昭和 61) 年、新所長江熊健彦は妻と二人、新規開拓に向かった。妻を叱咤激励。営業所を拠点に群馬、栃木、茨城、東北 5 県も回った。ゼロからのスタート。'86(昭和 61) 年には代理店 60 社だったが、2016（平成 28）年には 450 社となった。

「私も博多の次は東京に回りました。上手く回転し始めたのは足立区谷中から文京区本郷三丁目に営業所を移してからでしょうか。働く人材も集めやすくなりました」と笠木。彼は '97（平成 9）年から 15 年間ほど東京で過ごした。

「東京は価格競争だけでは伸びないと言われましたが、夜討ち朝駆けでお客さまの要望に迅速丁寧におつきあいする姿勢が徐々に受け入れられた。どんな土地でも一番大切なのはコミュニケーションと信頼を得る努力です」「この時期、頻繁に代理店を訪問し、ケニス会を作り、販売拠点を増やしていったことが、ボディブローのように後でじんわりと効果が出てきました。やはり企業は業績がいいときでも現状に甘んじず、常に先手先手と市場開拓を怠ってはならないのです」と、正武。

児童数の減少に伴う学校数の減少や理振予算の停滞を考えると、さらに次の一手を考える時期が来ていたのだ。彼が打ったもう一つの先手は理科教材や理科機器だけではなく、理化学分野への進出だった。両分野は重なる点も多いが、理科教材・理科機器に関しては自社で企画・製作するのが大半である。それに対して理化学機器の扱いは商社的な側面が強く、高額商品が多いばかりか、企業や大学相手に市場規模は遥かに大きい。そんな理化学分野に打って出る、その体勢作りに取り組むときが来ていた。

理化学分野に挑戦

'82(昭和 57) 年、サイエンス・プロジェクト（S プロ）を結成。試験研

究室向けのカatalog 製作や新たな代理店ルートの開拓に取り組んでいた。もちろん一朝一夕に成果は実るものではない。そんな中、'87(昭和 62) 年にはバイオカタログと研究用科学機器カタログを製作。この頃、農業高校などで植物バイオ（アグリバイオ）の授業が取り入れられ、これらのカタログに掲載された実体顕微鏡、クリーベンチやバイオピンセットなどがよく売れた。

農業高校などで実績を上げたのは新たに取引を開始した理化学機器の代理店だった。'96（平成 8）年には掲載商品を徹底的に見直し、オリジナリティ溢れる企画の斬新な 1100 号カタログを発行。他社との差別化が図られた。さらに 2016（平成 28）年、増田理化学工業のグループ化に伴って教育用理科機器（E）と研究用科学機器（S）の

売上比率は 5:5 までになる。

「教育用理科機器以外の柱を作っておくことは、少子化の今、必ず必要となってきます。正直、現時点では理科教育だけをやっているほうが利益面では安泰です。しかし、先の保証は何もない」と正武。将来に向けての 2 本目の柱と研究用機器分野を位置づけていた。

バブル経済の果てに

実は 1980 年代の後半から 1990 年代の初頭にかけて、日本経済は空前の好景気に沸いていた。潤沢な資金を元に金融や資産運用で大幅な利益を上げた者、分不相応な買いあさりなどが一般の人々の間でも起こり、嵐のような一大消費ブームが巻き起こって

いた。バブルの発生は過大な金融緩和によるもので、一時は 4 万円まで株価は急騰した。ところが実体経済に支えられていない株は急落。膨れあがったマンションや土地価格も価値を失った。

「今にして思いますが、余分なことに手を出さなくてよかった。踊らされた経営者が道を誤ったケースがものすごく多かったですね。潤沢な資金などなくてよかったと思います（笑）。企業はいたずらに本道をそれるのは、よくない。私たちは戦後に育った経営者ですが、目の前で父や叔父が企業を一生懸命育ててきたのを目にしていたのは大きな抑止力でした」と正武。

時代の読みに失敗した企業は「失われた 10 年」に突入する。

ケニスと協力工場

(株) ジョイテック
(大阪市東淀川区下新庄)
代表取締役
藤崎義治



ケニス商品課にて藤崎義治氏

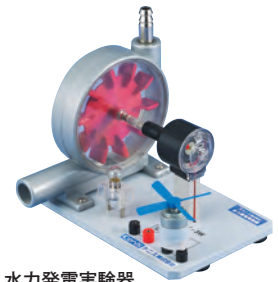
1959(昭和34)年、父が黒川製作所黒川さんの紹介でお取引を開始。一方、私は1975(昭和50)年大学卒業後、科学共栄社にお世話になりました。当時、若き西松新社長(現会長)を筆頭に中堅どころの先輩方が活躍され、今の隆盛たる会社の礎を築き始めた頃でした。そんな中、先代の社長肝いりで発足し、2代目社長の時に実を結んだ研究顧問会に、なぜか私も学生時代より参加させていただいており、色々な商品が考案されるのを間近に見てまいりました。その中の一つで、運動記録器という商品では設計に携わらせていただき、父の工場で製作をし、僅か入社3ヶ月目の私が、広島で開催された第1回代理店会議で商品説明の大役を仰せつかりました。

また営業では中国・四国を担当させていただき、3年間、厳しくも暖かい指導を賜り、人生初の多くの経験をさせていただいたのは一生の思い出であり、財産と成りました。

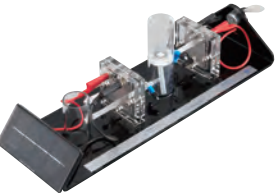
その後、退職して家業を継ぎ、株式会社ジョイテックを設立し、今日まで58年間という長きにわたってお世話になってまいりました。



2代目東京支店
理化学機器や医療機器の商社やメーカーが集まる本郷に移転する。営業や求人が各段に良くなる。



水力発電実験器



燃料電池実験器

新エネルギー、再生可能エネルギー・省エネルギー・防災など環境エネルギー教育に力を入れる。燃料電池実験器は太陽電池パネルで発電し、水の電気分解を行い、発生した水素で燃料電池による発電を行うドイツ製の実験器である。



E 680 号カタログ('96)
DTP編集への移行に伴い、編集作業全てをパソコン上で行えるようになり、柔軟な編集が可能になる。以後、編集作業の大半が企画室で行えるようになった。



S 1100 号カタログ('95)
表紙や巻頭ページの「科学の森へようこそ」というデザインが斬新で話題になる。この年を含め、カタログの表紙デザインはユーザーの目を引くように工夫している。



E 610 号カタログ('89)
平成元年に発行されたE 610 号はページ数が500ページを超える。この後、'95(平成7)年のE700 号で600ページ、2009(平成21)E750 号で900ページを超えた。



1990(平成2)年、大阪本社前に集合した社員。旧本社前にて。



電子てんびん
上皿てんびんに代わり価格が下がりがだした電子てんびんが普及しだす。



レーザー光源装置
小型長寿命・低価格で、光学実験用に光路がはっきり見えると好評。

ケニス株式会社の誕生。そしてバトンは次へ

＊エネルギー・環境カタログ発刊
十二月 優良申告法人表彰受賞
一九九八(平成二〇)
二月 ホームページ開設
＊北海道植銀、山一証券など大型倒産が続出(六階建五九七世)
四月 東京営業所 本郷移転
一九九七(平成九)
七月 資本金五〇〇万円に増資
一九九六(平成八)
十月 大阪科学機器協会三〇周年記念
福岡営業所移転
十月 福岡市博多区東比恵三丁目一六一三

一月 阪神淡路大震災
一九九五(平成七)
八月 資本金四〇〇万円に増資
大阪中小企業投資育成株式会社に対して
八月 転換社債発行
四月 社員持ち株会発足
一九九四(平成六)
＊企画部宅急便を開始
文部省事務担当研修会で社長が講演
一九九三(平成五)
(延床面積五八六㎡)
三月 摂津倉庫増築
＊花と緑の万国博を大阪鶴見緑地で開催
初の海外社員旅行(台湾)
一九九〇(平成二)
八月 『社史四五年の歩み』発刊
二月 資本金三二〇〇万円に増資
一九八九(平成一)

神戸の震災からの復興

1995(平成7)年1月17日午前5時46分、突然の大地震が神戸の街を襲った。マグニチュード7.3。高速道路をなぎ倒し、倒壊した住宅は25万棟。あちらこちらから火の手が上がり、「都市直下型地震」の怖さを身を以て知る。「神戸営業所(神戸市東灘区魚崎中町)は特に大きな被害はありませんでしたが、営業所周辺は燃えて大変でした。当然、学校は避難所になっていたのですが、こちらも営業どころではありませんでした。教育委員会の方と被害状況を把握するために、あちこち走り回ったということを記憶しています」と、当時神戸営業所長だった鍋谷憲幸。震災後、復興

予算が出たので、理科の教材や機器などを多くの学校が新たに揃えたと記憶しているという。

正直、災害はいつやってくるかわからない。企業経営も同じで、余裕があるときに次の手を考えておくべきなのだ。

「だからSカタログで理化学の分野に力を入れ始めたのもこの時期ですし、営業所の見直しを盛んに始めたのもこの時期です。まず摂津倉庫の不要な土地は整理し、倉庫としての機能のみ残した。福岡は'95(平成7)年12月に手狭になったので現在の場所に移転。同じ年に大阪中小企業投資育成会社に出資してもらっています。当時、投資育成会社の出資を受けているのは優良会社の証して、一種の企業ステータスで

した。企業の存在価値を高めると同時に、人材の育成と製品の充実と販路の拡大に取り組みました」と正武。2000(平成12)年にメーカーの一社である東京前川科学が倒産。同社は北海道に強い地盤を持ち、No.1の販売力を持っていた。東京前川科学の坂下璋常務から思いがけず、後をケニスにやって欲しいと連絡があった。直ちに北海道へ飛び、同社の代理店を坂下と正武が事情説明に回った。こうして、倒産して1ヶ月も経たないうちに札幌営業所を開設した。若くして代表取締役になった正武だったが、無我夢中の中、事業を拡大し、変化に翻弄されることなく、業界や社員からの信頼を得て無事に難局を乗り切ったのである。

ケニス株式会社

2001(平成13)年4月、21世紀が始まったこの年、創業以来使ってきた「科学共栄社」から「ケニス」へと社名変更が行われた。

「1974(昭和49)年7月から『ケニス』の商標は登録されており、製品にはケニスの商標が使われていた。入れなどに行くと、『科学共栄社』はケニスというメーカーの代理店と誤解している方も多かった」と正武。ミレニアム(千年紀)にあたるこの年に、今まで愛称として親しまれてきた「ケニス」に社名を変更することになったのだ。

ケニスの商品開発は、創業当時から昭和60年頃までは顧問の先生方の意



1990(平成2)年4月1日から9月30日まで大阪市鶴見緑地公園で行われた国際花と緑の博覧会は冷え込んだ日本経済に活力を与えたとされる。科学の発展至上主義だったなかで、花と緑との関わりの中で豊かな暮らしを考えるという今までとは違ったテーマが話題を呼んだ。

第3代目社長を迎え新生ケニスへ



E 860 号カタログ ('12)
1000 ページを超えて。業界で初めて紙の軽量化を試み、前号より30%軽いカタログとなった。発刊後に話題を呼び、他社へも影響を与えた。



S 3100 号カタログ ('14)
カタログの大幅な軽量化、小口印刷の導入、そして誌面の刷新により、カタログとしての使いやすさを大きく向上させた。



毎年、代理店様向けに開かれている新商品説明会。メーカーにも参加してもらっている。壇上は新社長の西松正文。

福島原発事故の影響で放射線量測定器の需要が増大した。身のまわりの放射線量を手軽に測定でき、役所や企業、個人から注文が殺到した。品薄の中、品揃えや供給能力で他社に先んじることができた。

放射線測定器
ガンマ・スカウト放射線測定器
A2700

'17 (平成 29) 理振カタログ (小・中・高) 文部科学省の理科教育振興法に対応するカタログで、'54 (昭和 30) 以降 62 年間に渡り毎年発行を行っている。



3 代目福岡支店



ラボディスク

プログラミング
ロボット

理科実験用パソコン計測機のラボディスクは、温度、光強度など 12 センサを内蔵。理科実験の計測データをパソコンやタブレットに表示させることができる。多くの教科書にも掲載される。プログラミングロボット m Bot は、ライトレースや光や音をプログラミングすることができる。



ICT・プログラミングパンフレット教材提示装置や無線を備えたデジタルセンサー、プログラミング教材や最先端器具・教材を掲載。他にも多数のパンフレットを随時発行している。

アクティブラーニングに対応する
理科教材の今後

企画部主席
米谷 彰



子ども達を前に実験の楽しさを伝える米谷彰



理科教育は時代とともに進化・多面化しています。ゆとり教育時代には環境教育に注目し、環境に関連する身近なテーマの実験機を提案、子ども達が取り組みやすい目線で製品開発を行いました。環境教育に取り組みされる先生方を支援すべく、授業での着目点や実験機器の活用点を網羅した環境カタログを業界に先立ち発刊し、大変高い評価をいただきました。その後はエネルギー教育にも対応した最新の実験機器にも毎年取り組んでいます。

近年は科学好きの児童生徒を支援すべく「科学の甲子園」にも協賛。大会実技試験で使う実験器材の調達など、「科学の甲子園」を全面的にサポートしています。大会での優秀校にはケニス賞として最新理科器具を授与しています。

2020 年からの新学習指導要領



では、飛躍的に進化する時代に対応できる人材教育を目指した教材開発が必須化してきます。授業ではアクティブラーニングを全面的に取り入れ、単に実験で確かめる時代から、実験そのものの過程を見直し、分析・追求する学びに変わっていきます。時代の変化に対応できる理科教材のニーズに向けて、ケニスは現場の先生方と連携して製品開発を進めています。

2010 (平成 22) 年
3 代目社長誕生

2010 (平成 22) 年 10 月に 3 代目社長に西松正文が就任した。父正武も若くして社長に就いており、社長になるなら若い方がいいと思っていた。「経験はないが、新しい発想ややりたいことがたくさんある。入社以来、仲間のように接してきた社員が自分を支えてくれるようになっている」と感じていた。「この仲間と一緒にやれるなら何も不安はないと感じました」と正文。しかし社長に就任した年は大型補正予算の翌年で、前年に大量の理科備品を学校に納入したため、売上の的には大変厳しい船出となった。さらにその翌年 (平

成 23 年) には東日本大震災が東北地方を襲うなど、社長としてのスタートは厳しい幕開けとなった。「非常に厳しい状況下での幕開けでしたから、代理店さんからは『お前が社長になってからはいいことが一つもあらへんな』と言われる始末。しかし、振り返るとこれ以上に墜ちる心配のないことは私のバネになっていた。まさに試練を受け止めるところからのスタートでした」

社長としての大きな転機は 2016 年の増田理化学工業とのグループ化。「研究用理化学事業は、このままでは大きく成長軌道を描くのは難しいと感じていました。そんな時に、M&A は事業戦略として大きな決断でした」と正文。

創業七十周年
二〇一七 (平成二九)
* 英国が国民投票で「EU 離脱」過半数に達する
一月 増田理化学工業をグループ化
二〇一六 (平成二八)

(二階建一九八四)
七月 福岡営業所新築
一月 広島営業所移転
二〇一三 (平成二五)

九月 札幌営業所移転
八月 仙台営業所移転
二〇一三 (平成二四)

六月 仙台営業所開設
三月 福島原発事故発生
二〇一三 (平成二三)

* 神戸市に顕微鏡を「二一五台」寄付
■ 八九億の売上を記録 (利益は二億)
理振法の特別補正予算が出る
西松正文三代会社社長就任
十月 西松正文三代会社社長就任
二〇一〇 (平成二二)



シャンシャン
上野動物園にパンダの赤ちゃんの『シャンシャン』が誕生したのは 2017 年 6 月。その誕生をみなさんが心待ちにしていました。平和だからこそ喜びです。